



プレスリリース

令和7年度草の根・人間の安全保障無償資金協力：

レルナヴァン村灌漑用水貯蔵施設及び送水管整備計画 贈与契約署名式の実施

エレバン：令和8年2月6日

令和8年2月6日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「レルナヴァン村灌漑用水貯蔵施設及び送水管整備計画」（供与限度額：127,000米ドル）の贈与契約署名式が、ロリ州スピタク市のYMCAオフィスで開催されました。本式典には、青木豊駐アルメニア日本国大使、アレン・ムクルチャン・ロリ州知事、アルセン・ガリビヤン・ロリ州副知事、カジャイル・ニコゴシヤン・スピタク市長、サルギス・マルコシヤン・非政府組織スピタク農民代表のほか、政府関係者やレルナヴァン村の住民が参加しました。

本事業は、スピタク市レルナヴァン村において、灌漑用水貯蔵施設（8,900立方メートル）の送水管（450メートル）を整備することにより、未使用農地80ヘクタールの生産性回復を図り、地域住民150世帯およびナゴルノ・カラバフからの避難民50人を含む社会的脆弱層の生計改善を図るもので、同村では、1988年のスピタク地震により灌漑設備が甚大な被害を受け、村民による一部復旧の試みにもかかわらず、水源から農地への送水が依然として困難な状況にあり、農業分野における雇用機会の縮小と村民の経済的脆弱性の高まりを招いていたことから、対応が求められていました。

マルコシヤン・非政府組織スピタク農民代表は、「日本政府の支援により、レルナヴァン村は安定的な水へのアクセスを可能にする灌漑システムを整備することができ、地域の産業にとって重要な農業の生産性が向上します」と謝意を述べました。また、青木大使は「この水貯蔵施設により、安定的な灌漑用の水へのアクセスが確保され、農業の効率が上がることを嬉しく思います。本事業がレルナヴァン村の農業生産性の向上と持続可能な未来に寄与することを期待しています」と祝辞を述べました。



贈与契約締結の様子



(左から)

ニコゴシャン・スピタク市長、
青木大使、
ムクルチャン・ロリ州知事、
ガリビヤン・ロリ州副知事、
マルコシャン・非政府組織スピタク農民代表